

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500447		
法人名	社会福祉法人 やまどり福祉会		
事業所名	グループホーム ぽっかぽっかの家		
所在地	胆沢郡金ヶ崎町六原坊主屋敷36番地3		
自己評価作成日	平成22年10月26日	評価結果市町村受理日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372500447&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成22年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだけで行うには難しい行事や慰問の受け入れは隣接する特養と合同で開催し、利用者同士の交流も出来、利用者の方々に大変喜ばれている。また、慰問や行事がある時には、近所の方々にも広くお知らせし、地域の方々に参加して頂いている。時には近所の方が自家製の野菜を届けてくれる事もあり地域との共存・共栄を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線及び東北自動車道北上金ヶ崎インターから、やや西に入った閑静な場所に立地している。開設時には地域の方々に、建設の主旨を説明し、納得を頂いた経緯があるため、地域公民館や学校、幼稚園などの行事があるたびに、案内を頂き、適度な交流が図られている。また、隣接の同法人の特養とも連携が図られ、医療・防災・レクリエーション・人事などの面で効率的な相互互換のシステムが出来ている。OJTチェックリストも用意し、それを基に日常介護の総合的な自主点検を行い、更に職員の言葉のチェック表と利用者本人の気持ちシートも用意され、気がついた都度記入し、理念で謳っている尊厳と思いやりと共感を念頭に更なるケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「我が家の暮らし三カ条」を具現化する為、玄関ホール、リビングに提示している。また事業所全体で同じ目標に取り組む事を意識する為、毎朝の合同ミーティング時に理念の唱和を行っている。	(我が家の暮らし三カ条)1.お互いが人としての尊敬を重んじ合い暮らします。2.やさしさと思いやりを常に心がけて暮らします。3.暖かさ、笑い、喜びが共感できる暮らしを求めます。以上の理念は、非常に身近に分かりやすい内容であり、要所に掲示されて日々のミーティングで確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや自治会主催の新年交賀会、水路清掃等に地域の一員として参加している。また、地域の小学校や幼稚園の歌や踊りの慰問があったり運動会の予行練習や学習発表会に招待をされ、見に出かけている。	開設時に地域住民に事業の目的、方針などを十分に説明して、納得を得られた経緯があり、地理的には住民とは少々離れた場所にあるが、地域公民館・学校・幼稚園などの行事がある度、案内を頂き、適度な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学校生の介護福祉士実習やニチイ学館のヘルパー研修生の受け入れを通じ認知症高齢者への支援と理解を呼びかけている。また、運営推進会議では日々の利用者の様子を伝え、質疑応答を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で運営状況や活動報告を行い行政、地域、利用者家族の方々から意見や要望を交換し合い、サービスの向上に努めている。	市・役場の職員、地域代表、家族代表、町の介護相談員などで構成されている推進会議は、現状、利用者の動向、感染症対策、今後のとりくみなどについて話し合われ、サービスの向上に努めている。	回数を重ねてくると、マンネリ的なことが考えられる。従って短時間に効率良い話し合いをするためにも、会ごとに何かテーマを設けての話し合いも有効と思われる。また最も大事な災害に対する幅広い話し合いをする為にも、消防、警察への声かけも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター主催のケア会議に参加し、情報交換や意見交換を行っている。また、月に1度、金ヶ崎町の介護相談員が来訪し利用者の日々の様子や変化などを常に伝えている。相談日は和やかな雰囲気の中実情を伝えている。	包括支援センター主催のケア会議に出席し、情報交換を行っている。また、金ヶ崎町独自の介護相談員も月に一度は来訪され、職員と意見交換をしたり、相談を受けたりしている。外部評価の結果報告も包括支援センターに行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束廃止に向け研修会を行い正しく理解し自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	全職員が内・外部講習を受けており、正しく理解している。また、現在まで身体拘束を必要とされる事態はなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が「高齢者虐待防止法」に関する研修を受け、その後報告会にて職員へその重要性について報告している。また、常に虐待は行われていないか発見シートやヒヤリハット、事故報告書を基に検討会を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修に参加し、その後報告会にて職員へその重要性を伝え、話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、「重要事項説明書」「契約書」、「個人情報」「医療連携指針」等を基に説明を行い、その際には本人や家族の不安や要望を尋ねながら説明を進行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口に投書箱を設置している。また、相談苦情担当者、第3者機関を設け問題発生時の対応に努めている。なお、月1度行われる定例運営会議では検討会を設け、受け付けた要望に対し協議を行い改善している。	相談苦情担当の第三者機関を設け、問題発生の都度、月一回の定例運営会議で検討し、改善するようにしている。現在のところ意見・要望はほとんどない状態である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護リーダーは常に職員とコミュニケーションを図り職員の意見を聞き、働きやすい環境作りに努めており、また職員から出た意見は職員会議で取り上げ検討している。	職員会議や定例運営会議で職員の意見・提案を話し、検討している。常に介護リーダーも職員とコミュニケーションを図り、意見・要望を聞くようにしている。本年は勤務時間の変更やOJTチェックリストの見直しを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、職員が個々に、具体的な目標を持って働けるよう努めている。また、人事考課制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修計画を立て、経験年数や職員本人の目標を考慮し受講させている。また、新人職員を対象に一定の期間で職場内において先輩職員が講師となり基礎的な研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム奥州ブロックに所属し、定例会や職員交換研修に参加して情報交換や意見交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な情報収集に努め、安心して利用できるよう傾聴にも心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族が困っている事を明確にし、面会時には近況を報告したり、家族の要望を聞くよう努めている。また、家族が気軽に訪問できるよう職員との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で既往や生活歴を考慮し職員全体で、情報を共有し、支援を開始している。また生活パターンや注意が必要な点を細かく記録しておき、検討会で優先して支援すべきことを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に昔の習わしや季節の料理などを教えてもらう場面があったり、掃除や料理をお願いしたり互いに支え合い暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を報告したり、行事やイベントには利用者と一緒に参加してもらえるよう呼びかけている。また、夏祭りや敬老会では家族や職員も一緒に食事をしながら楽しいひと時をおくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望を取り入れ馴染みの場所にドライブに出かけたり、馴染みの人がいつでも気軽に遊びに来れる環境づくりに努めている。	利用者から行きたい“バス停留所”の名を聞いてその場所に出かけてきたり、文化祭、敬老会には、出来るだけ参加できるように支援もしている。ホーム内に閉じこもらないように心がけ、買い物、ドライブ、外食などにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や心身状態、トラブルの要因等を把握した上で居間やホールには個々にくつろげる環境の整備を行っている。また、ドライブや行事などの活動を通して利用者同士の親睦を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて情報提供を行っている。また契約終了後も気軽に立ち寄り悩みや相談がしやすいような環境づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人に担当職員を決め、常に利用者が安心して思いを話せるよう努めている。また、「私の気持ちシート」を作成し、利用者の現在の思いを汲み取る工夫をしている。	総合的には入居の時に聞いているが、身近にその日その日の「私の気持ちシート」を用意して、主に担当職員が、利用者の現在の思いを汲み取る工夫をして、ケアの向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者だけではなく、家族やこれまでに関わってきた事業所へも情報提供をお願いし、情報収集に努めている。また、利用者とのコミュニケーションを通じてこれまでの生活歴や趣味、嗜好の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が情報を共有するため申し送り、日々の記録と確認によりその日の様子や変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見、要望を聞き、医師、看護師と連携を図りながら職員全員で個々のニーズに即した介護計画を作成している。	ケアプランの作成は、本人・家族の要望を聞き、毎週回診に来ていただいている岩瀬脳神経クリニックの医師と法人の看護師、ケアマネージャーと協議して、職員の意見を中心に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に関する様々な情報は個々のケース記録に記入し、それを確認することで情報を共有している。また、日々話し合いをしながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活、医療連携体制の指定を受け、柔軟な支援が図られている。また、希望があれば通院の送迎や付き添い介助を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーでの買い物や近くの温泉施設へ行って地元の方々との交流。安全対策として地元消防団、近隣の方々へ緊急時の救助等をお願いしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医と連携を密にしている。グループホームへの往診をお願いしている医療機関もある。家族から希望があれば通院介助も行っている。	協力医には、いわぶち脳神経クリニック、おいかわ歯科クリニック、北上済生会病院にお願いし、協定書を交わしており、密接な連携を図っている。通院は基本的には家族が行っているが、都合がつかない場合は規定の料金を頂いてホームで送迎を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師が兼務しており、利用者の体調を常に報告している。24時間オンコール体制を行っており日常の健康管理や医療支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院に至るまで、本人、家族の不安を軽減できるよう家族と相談しながら医療機関へ情報提供を行っている。また、定期的に訪問し経過を聞くなど連携を図り支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針を定めサービス開始時に十分説明を行っている。状態の変化があるごとに家族との話し合いの場を持ち、家族の気持ちの変化や利用者本人の思いを確認している。	ホームの対応指針は作成してある。ただし医療行為が必要な事態になれば、協力病院である済生会北上病院等へお願いすることになっている。家族の希望があれば、看取りの希望を確認し、同意書を頂いたうえで、終末期の介護、看取りを行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署員による心肺蘇生法やAEDの使用法の講習を受けている。また、看護師による応急手当の職場内研修会を開催している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、消防団や防災機器メーカーの指導の元消火設備の説明と使用方法について指導を受けている。また、災害時には隣接する特養のホールが避難場所となっており地域住民にも避難場所として提供している。	年2回の避難訓練を消防団や防災機器メーカーの指導のもとで行っている。隣接の特養施設には防火水槽もあり、広いホールは合同の避難場所にもなり、地域住民にも場所提供を知らせている。また、法人全体と町内自治会との災害時における協定書も用意してある。	一般の人家からやや離れている為、緊急時の支援が短時間に得られにくい面がある。従って自治会などへの積極的な呼びかけをさらに期待したい。またホーム内の非常口の段差も車イスの出入り可能な程度に改善されれば、大変安心感が得られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言葉のチェックリスト」「OJTチェックリスト」を活用し日々の利用者に対する言葉かけや対応を振り返りチェックしている。	総合的なケアの振り返り策としてOJTチェックリストを用意しているが、さらにスポット的な「言葉のチェックリスト」が用意され、人格を尊重した言葉かけや対応に心がけ、大変穏やかな雰囲気が漂っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと話を聞き、利用者の思いを受け止め、利用者が思いを話せるような質問の仕方を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の立場になって対応し、その日の過ごし方の支援を進めるよう常に意思統一を図っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月馴染みの理容師が訪問し、利用している。希望の髪形を伝えながら散髪してもらっている。また利用者と一緒に季節に応じた衣類を選んだり、化粧品ボランティアの訪問がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に畑で野菜を育て、収穫した野菜で料理を作ったりしている。野菜の皮むきや配膳、食器の後片付けなど出来る事は利用者と一緒にやっている。時には外食を企画し、好きなものをメニューの中から選んでもらっている。	職員は利用者と一緒に食事をとり、出来る方には調理、片付けをお願いし、ホームの畑の野菜で調理をしたり、時には隣接の特養と合同で寿司屋さんに来てもらい寿司を握って頂いたり、パイキング、ソバ打ちなどで職員と楽しみながら取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量が極端に少なかった場合は記録し申し送っている。水分摂取量は毎日個々に記録し毎日の摂取量の把握に努めている。食べ物や飲み物の好き嫌いを把握し好みに合ったものを個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が口腔ケアの研修会に参加し職員が重要性を理解し個々の状態に応じた援助に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を把握した上で残存機能の活用と適切なオムツの利用に心がけている。紙パンツから布パンツの使用の拡大に向け取り組んでいる。	簡易な使い捨ての紙オムツから、布製のオムツに替えることにより、失敗する方が少なくなっている。利用者は殆ど意思表示され、職員もパターンを把握しているため、排泄チェック表は必要としていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多めに取るよう呼びかけている。お茶の時間には個別に好きな飲み物(冷たい暖かいなど)を聞き提供している。食事には野菜を多く取り入れ、毎日の排便確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は本人に尋ね時間の要望にできる限り対応している。また、安全に入浴できるよう個々に見守りや一部介助を行っている。	入浴は希望優先であるが、おおむね2日に1回の入浴で、夕方の希望が多い。入浴拒否される方には、職員を交替したり、タイミングをずらしたりして、工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう昼の過ごし方を工夫し心身状態の把握に努め寝具、室温、証明等落ち着く居室の環境づくり。居間にはこたつやソファを置き、いつでもくつろげるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で確認を行い、看護師やかかりつけ医と連携を図り体調の変化に留意している。服薬は各個人ごと、1回ごとに管理し、都度職員が手渡している。服薬後は症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれに裁縫や茶碗洗い、畑仕事や散歩など毎日の役割や日課がある。また、お酒を楽しんでいる利用者もあり、楽しみや役割を続けられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて買い物や外食、ドライブ等の支援を行っている。また、食事時になると畑の野菜の収穫をお願いしたり、日常的に外へ出られるよう支援している。	ホーム内に閉じこもらない生活を目指している。主に担当職員などからの声かけの中で、買い物、散歩、ドライブなどを企画し、実践している。地域の幼稚園、小学校の運動会や学芸会等の見学にも出かけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭の管理が出来る利用者と預かり管理している利用者がある。玄関には自動販売機が設置しており、自由に購入できるようになっている。また、週に1度ヤクルトの販売員が訪問し、その都度利用者へ知らせ自由に購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合は職員が代わってかけ本人へ繋いだり耳が遠い利用者には間に入り、要件を伝えたりしている。目が不自由な利用者へは郵便物を代読し分かりやすく説明を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂居間からは外の景色が見られ、採光も良い。また季節に応じミズキ団子、雛人形や七夕飾り等、常に季節の草花を飾っている。	四季折々の風景がリビングから眺められ、小上がりの面はたたみが敷かれ、コタツを用意し、ゆったりした気分が味わえる。照明は、暖色系の適度な明るさで室温も適切で穏やかに過ごせる空間づくりに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、ホールにはテレビ、堀こたつ、リクライニング椅子、ソファがあり自由にくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそれぞれ利用者の好きな花や絵、写真などを飾りそれぞれに合った雰囲気作りに努めている。自宅からは使い慣れた家具など自由に持ち込むことができる。	大きな仏壇を持ち込んでいる方や、テレビ、家族の写真、位牌など多彩である。各居室の入り口脇には、障子の小窓を用意し、内カギもされている方の点検も可能にし、併せて和風の雰囲気も味わえるつくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が分かりやすいように工夫している。居室内において安全に行動できるよう個々に応じた対応に努めている。		